

自治 温故創新

考える
思いやる
やりぬく

まごころ

学校便り 6月号
令和5年6月20日
西東京市立田無第三中学校

大運動会を終えて

運動会実行委員長 秋本 康太

昨年度に続き、全校で一日かけての運動会となり、どのような運動会が良いのかと考えました。新しいことを行うべきか、コロナ前の競技を復活させようか、様々なことを考えましたが、まずは昨年度からの全力を尽くす空気感を定着させたいと考え、あまり形は変えずに行うことにしました。部活動などのチーム作りと同じですが、一つのチームを作るには3年は必要だと私は考えています。今年はその2年目。0ゼロから土台を作ることも難しいことですが、2年目は作った土台が固くなるか、柔くなるかが分かれる重要な年だと考えていました。昨年度の3年生が素晴らしい土台を作ってくれたこともあり、今年

自分としても、プレッシャーがありました。そして、結果として、一人一人が全力を尽くして競技に取り組み、土台をより強固なものにしてくれました。

全力を尽くすということは、私は、当たり前であって当たり前ではなく、簡単そうで簡単ではない、とても難しいことだと思っています。

運動が好きで、前向きな子もいれば、運動が苦手で、運動会を嫌だと思っている子もいる中で、三中の子たちはそれでも全員が一つのことに対して全力で取り組んでいきます。その姿に毎年心動かされ、感動を覚えます。

「走る」、「跳ぶ」という単純な競技ですが、その中で全員リレーのバトンを「つなぐ」、大縄跳びの「合わせる」というのは、仕事や生きることと同様だと今回ふと感じました。伝統や仕事を引き継いでより良いものを作っていく「つなぐ」、周りの人や環境を考えながら行動し、生きていく「合わせる」。そんな力を三中の子供たちはこの段階から身に付けられていると感じました。

また、近年、比較、競い合いが疑問視されることがある中で、私は競い合うことは成長していく上で一つの大事な要素だと考えています。1位になったか、ならなかったかは、さほど重要ではなく、1位を目指して努力したかが重要であり、目指すからこそ、成功も失敗もはっきりと見えてくる。見えるから、次に進める。個人的な意見かもしれませんが、私は、そう考えています。もちろん、成功を成功と捉えられるように、失敗を糧にできるようにするためには、大人の関わり方も必要となってきます。次のステップになるよう、教員一同、今回の大運動会の経験を大事にさせていきたいと思っています。

最後になりましたが、平日開催になったにも関わらず、参観して下さった保護者の皆様、休日も毎週集まり、受付等運営に協力して下さったPTAの皆様、毎日の練習で騒がしさが続いた中でも、優しく見守って下さった地域の皆様、本当にありがとうございました。

来年度、さらに良い土台が作れるよう、努力してまいりますので、今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。





御礼

校長 東山 信彦

平日開催にもかかわらず、500名を超える保護者・御来賓の皆様をお迎えして、運動会を実施できましたこと、厚く御礼申し上げます。当日に向け、教員・生徒一丸となって、準備・練習に取り組みました。準備期間中、忙しく学校生活を送る生徒を支えていただきありがとうございます。おかげさまで、天候不順に伴う様々な臨時的対応も乗り切り、梅雨の合間に、まさに「ハレの舞台」を迎えることができました。当日のみならずこの運動会への準備も含めて、上級生が、様々な場面で実力を発揮し行事を引っ張る「三中伝統の姿」に加え、新たに予行練習での2年生大縄跳びで、勃然と沸き上がった、1年生による応援コール、当日次々と更新された「三中新記録」等、「大運動会」では、伝統の中に創新を続ける、「三中の今の姿」をお届けできたと思います。

振り返りをしっかり行った後は、成果を誇るとともに、ここで見いだした課題を、これからの学校生活の中で解決すべく、さらに歩みを進めてまいります。

現在、1年生は校外学習、2年生は職場体験、3年生は修学旅行と次の行事に向けての取り組みを進めています。一週間後には期末試験も迫っています。三中生活はまだまだ続きます。引き続き、本校の教育活動にご理解とご協働をお願い申し上げます。

○最近の出来事

6月9日(金) 2年生仕事の話聞く会



第2学年では、未来の職業を探そう！と銘打って、学校運営協議会委員のご協力により、「仕事の話聞く会」を実施しました。メーカー勤務の方、オンラインで英語コーチをされている方、システムエンジニアの方、自然食レストランオーナーの方等、ご自分の職業について、また職業選択の動機など、豊富な人生経験を交えてお話しいただきました。

5月29日(月)～6月16日(金) 教育実習



三週間にわたり、三人の教育実習生が実習を行いました。期間中に、運動会も経験し、充実の三週間だったと思います。授業だけでなく、クラスにも所属し、丸ごとの「中学校の先生」を学びました。それぞれに、実習の総まとめとして「研究授業」を実施しましたが、そこには、緊張感漂う実習生に、授業がうまくいくように協力する、微笑ましい生徒の姿がありました。